

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第111号(2016. 6. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

## 第5回うどん県青少年東北被災地「絆」交流隊を終えて

株式会社 山倉建設 山倉康平

私は現在伊予灘の船上で原稿を書いております。先日起こった熊本地震の被災地に、再び出向いているところです。3泊4日の予定で、益城町を中心にうどんの炊き出し2000食を届けにまいります。

さて2011年、今から5年前になりますが、東北地方で地震による大津波が発生して以来、支援活動をさせていただいております。5年前の3月11日、テレビで見る津波の被害は皆さんも感じられたように、想像を絶するものでした。地震のあった翌月、南三陸・石巻を中心にうどんの炊き出しを行い、それをきっかけに今まで何度となく被災地に出向いてまいりました。



丸亀市役所 出発式が始まりました。

私が東北被災地支援の計画を立て準備をしているさなか、地元・周囲の方々から支援物資を多くあずかり、ご協力・ご支援を受けました。皆さんに背中を押していただきました。そして、香川のあたたかい気持ちを東北の方々にお伝えしたい、そんな思いになりました。



大川小にて

東北被災地では、うどんの炊き出し、うちわ、復旧のための道具などを届けさせていただきました。日々の状況経過と共に、必要とされる物事も変わっていきます。夏場になると、広い避難所には網戸も椅子等もなく、不便な生活が強いられます。そのころ私どもは、網戸を設置したり、床に直接長時間座るのはご高齢者にとってきついため椅子を現地で作成したりしました。避難所の皆さんと笑顔で接することができ、私たちも元気をいただきました。



門脇小の裏は新しい墓地が目立っています。

「2011年3月11日」この日はかつてない大惨事です。地震、大雨などの被害の多い日本では忘れてはいけない日なのです。被災地に出向くたび、強く感じるようになりました。そしてまた、

どのような対応が一番被害を小さくできるだろうか、ということを考えるようになりました。

3月11日の出来事を後世に伝え、防災のあり方を問うためにも、現地に出向くことはとても大切です。将来を支える子供たちにも是非体験をしていただきたいと思い、5年連続交流隊を結成させていただき、丸亀市・多度津町の中高生とともに現地に訪問してまいりました。



陸前高田市 金剛寺。

交流隊のメンバーからは毎回被災地での活動を作文にいただいています。その中で生徒が感じたこととして書かれていたことをいくつか述べます。日々の生活で、朝起きて学校に行くという毎日決まったようにする行動でも、当たり前ではなく、生かされているからできるのだということ。このような大惨事が起こった時、助け合うにしても、ご近所の方の顔や名前など状況が分からないと助けようにも動きが取れないということ。日々命を守る意識をもつことや、人との絆がいざというときの防災システムを作動できる大切な要因であることは、生徒たちの心に刻まれていったようです。



朝の掃除（仮設住宅にて）

短い期間の交流隊活動ですが、子供たちが育ち、ふるさと愛が少しでも育まれていけば、主催する私たち大人にとってありがたいことだと感じています。



名振仮設住宅を後にして



出発式



丸亀市到着  
お迎えありがとうございます。

# 事務局だより

平成28年 6月

今月の事務局だよりは、香川県炊き出し隊のまとめを掲載いたします。  
最初に熊本県地震において被災されました皆様にお見舞いを申し上げます。  
厳しい夏に向かって、体調維持にお気を付けくださればと願っております。

## < 香川県炊き出し隊 4/26～5/6のまとめ報告 >

### 準備作業 (4/20～4/25)

活動の成否を分けるほど、この準備工程は重要です。  
「炊き出し対象人数」「炊き出し場所」「水、電気、ガス」等を勘案のうえ、準備作業を行ないます。

#### ① 食材の確保と長期間の保存

- ・米は1食、0.6合  
(若い人が多い場合はプラスします)
- ・うどん玉は「真空パック」を活用
- ・肉類の保存法
- ・毎日のメニューを確定して、具体的な食材と調味料の確定
- ・ごはんを炊く釜の台数、お汁類の鍋釜の大きさ、数量の確定
- ・調理場所(環境等)によって、火力の確定

#### ② 輸送量によって、トラックの大きさ確定と荷造り用のシート類の確保

#### ③ レンタカー会社と車輛調整

#### ④ 現場までの道路、フェリー等のルート確認

#### ⑤ 当座の現金確保

#### ⑥ ボランティア参加者のとりまとめとボランティア保険の加入

#### ⑦ 炊き出し現場窓口責任者との事前対応



## 現場での活動

### (1) 現場到着

4月26日(火)19時50分熊本市立秋津小学校体育館横に到着。小雨まじりの中、学校教職員10数名の応援によって、トラック2台の荷物を下ろした。担当の後藤先生と明日からの作業をふまえての打ちあわせを行なった後、宿泊場所となっている公民館へ移動。責任者へごあいさつの後、10日ほどお世話になる2Fの会議室の部屋へ。翌日からの役割分担などのミーティングを行ない、あとは寝袋などに入って休息をとった。



### (2) 炊き出し活動

①午前5時起床。炊き出し場所となっている小学校へ移動し、朝食作業開始。

- ・朝ごはん(米約22Kg)の用意するグループ
- ・みそ汁を用意するグループ
- ・つけもの等(細ネギ)を用意するグループ

それぞれがテキパキと作業して、午前6時40分から午前7時にかけて配食し、朝食の作業終了。



②午前7時30分から私達の朝食

提供した炊き出し料理について、「ふりかえり」など行ないながらいただきました。



③午前10時から昼食の準備作業

- ・うどん玉を真空パックからとりだす作業
- ・うどんにのせるネギ、カマボコ類の調理
- ・うどん玉を湯がく作業
- ・うどんのスープ(汁)を作る作業

午前11時50分に体育館、公民館担当者へできあがったうどんの受け渡し作業



④午後0時30分から私達の昼食タイム

残ったうどんスープをかけて皿うどんのイメージで談笑しながらの昼食。その後、夕食に使用のお米を洗って、釜にセットし、午後4時まで自由時間。



⑤自由時間 約3時間

被災現場の道路、電柱、建物、公園などウォッチング。震度7の“スゴサ”を体感。

最終日は公民館～小学校間の道路並びに小学校の玄関周辺の清掃活動（大型ゴミ袋15個分）



⑥午後4時に全員集合

- ・タごはんを作るグループ（米約22Kg）
- ・豚汁を作るグループ
- ・豚肉のアク抜き作業
- ・野菜類のカット作業
- ・大鍋でお湯を作るメンバー等に分かれて作業



⑦午後6時からでき上がった夕食の引き渡し

⑧午後7時30分から午後8時にかけて夕食に使用した保温食缶、大鍋、釜などの水洗い作業の実施した後、遅めの夕食をとった後、戸締して、公民館へ移動。



以上、このたびの活動状況をとりまとめましたが、特に神経を使ったのは、衛生面です。マスクの着用と、手は石ケンでよく洗った後、アルコール消毒、更にはうすいゴム手袋の着用しての作業、お互いに注意喚起しながら行ないました。

## 編集後記

熊本・大分地震で被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心より願っております。

今月の防災減災の輪は、株式会社山倉建設 山倉康平様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。